



令和4年11月分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和4年11月分について、輸出額は「自動車」、「金属加工機械」などが増加したことから、対前年同月比16.3%の増加となった。また、輸入額は「有機化合物」などが減少したものの、「原粗油」、「絶縁電線及び絶縁ケーブル」、「衣類及び同附属品」などが増加したことから、同22.3%の増加となった。

その結果、差引額は6,639億円（同11.3%の増加）となった。

注) 本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同月比による
また、★印は全ての月を通じて過去最高を示す（1979年1月以降のデータを基礎として比較）

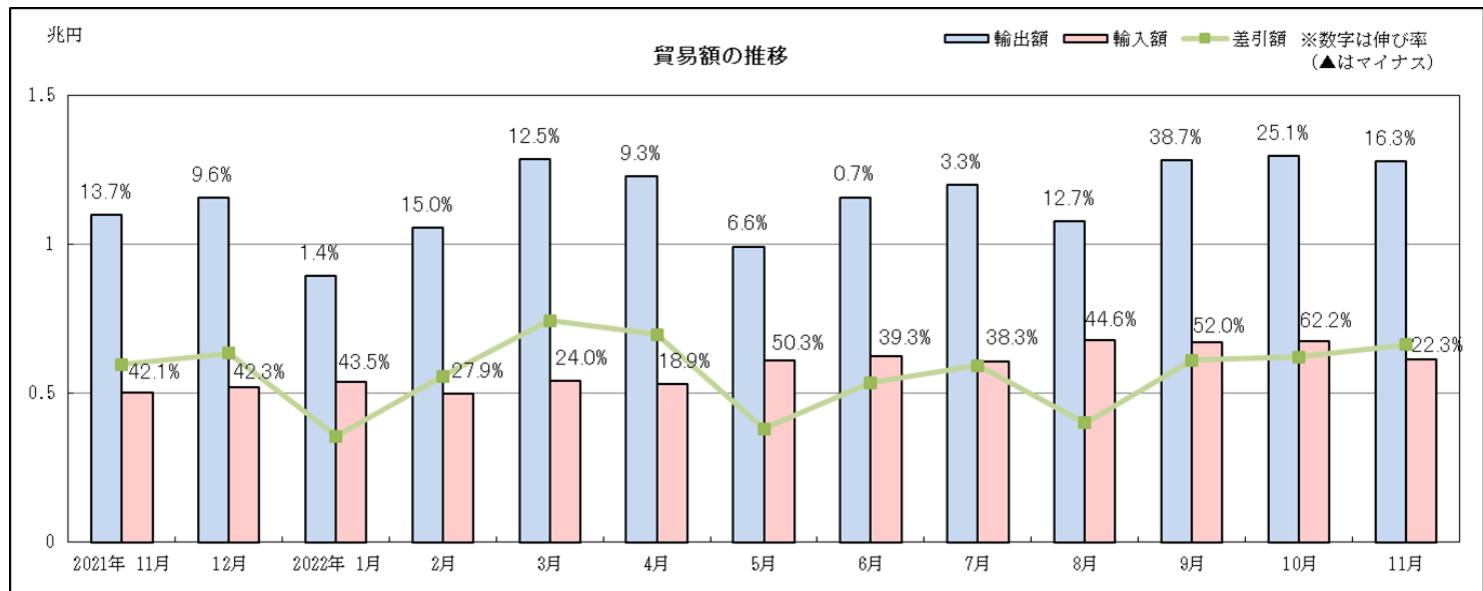
○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	1兆2,776億円	+16.3%	6,136億円	+22.3%	6,639億円	+11.3%
	13カ月連続の増加		22カ月連続の増加		3カ月連続の増加	
管内（名港シェア）	2兆0,165億円 (63.4%)		1兆2,034億円 (51.0%)		8,131億円 (—)	
全国（名港シェア）	8兆8,375億円 (14.5%)		10兆8,649億円 (5.6%)		▲2兆0,274億円 (—)	

注) 名古屋港における差引額は、平成23年6月以降138カ月（11年6カ月）連続 全国港別（空港を含む）第1位

○主な増減品目

		概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出 増加	(1)	自動車	★ 3,726億円	+29.0%	+7.6	4カ月連続の増加
	(2)	金属加工機械	549億円	+74.2%	+2.1	21カ月連続の増加
輸入 増加	(1)	原粗油	255億円	全増	+5.1	8カ月連続の増加
	(2)	絶縁電線及び絶縁ケーブル	325億円	+32.5%	+1.6	13カ月連続の増加
	(3)	衣類及び同附属品	342億円	+25.6%	+1.4	7カ月連続の増加
減少	(1)	有機化合物	121億円	▲32.5%	▲1.2	5カ月ぶりの減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。